

成人期のきょうだい関係と家族

——全国家族調査 18 質的調査データによるアンビバレンス概念を用いた分析——

吉原千賀（高千穂大学）

家族研究では、これまで親子関係、夫婦関係をもっている人（もてる人）の関係性に焦点が当てられてきた。しかし、長寿高齢化、未婚化のなかで、獲得的な関係性である配偶者や子どもといった家族との関係性が得られない人や、離死別者のように長い人生のなかでその関係性を失った人、あるいはそもそも家族をもつことを選択しない人が増加している。家族関係のなかでも親子関係と夫婦関係の研究に集中してきたことへの批判的検討を進めるなかで、研究者たちの間でも多様な家族生活全体に焦点を当てようとする動きが出てくる。すなわち、親や子、妻や夫といった狭い世代間、世代内家族関係から個人と彼らの家族とがライフコースの全体にわたってお互いに関係していくその有り様への研究関心のシフトである。Walker ら（2005）は、それを「an invisible family life course」への注目の必要性として強調し、その際に重要な鍵を握るのがきょうだい研究なのだと主張する。なぜなら、きょうだい研究、とりわけ成人期のきょうだい関係についての研究は、両親と子どもたちの間の関係や夫と妻との間の関係を越えた家族のつながりに目を向けさせ、定位家族と生殖家族とを橋渡しする関係性として位置づけられるためであるという。

成人期のきょうだいとの関係は、サポート源になる場合もあれば、リスクになる場合もある（平山・古川 2016）など、そこには多様性がある。多様性が生み出されるのは、成人期におけるきょうだい関係が「義務」と「任意」というアンビバレントな特徴を持ち合わせているからだと考えられる。家族関係におけるアンビバレンスは、これまで世代間関係研究を中心に多くの議論がなされてきたが（吉原 2009）、Connidis（2005）は成人期におけるきょうだい関係がもつアンビバレントな特徴に注目すると、世代間関係研究で用いられてきたアンビバレンス概念をきょうだい関係研究へと拡張することが可能であると主張している。

世代間アンビバレンスの観点から NFRJ98、03、08 データを用いて世代間居住関係について量的分析を試みた田渕（2012）は、今後の研究課題として質的研究を通してアンビバレンスに人々がどのように対処したりマネージメントしたりしているのかを検討する必要性を指摘している。また、成人期におけるきょうだいとの交流頻度や援助関係について NFRJ18 データを用いて量的分析を行った結果を考察する際にも、「きょうだいへのアンビバレントな心理」など質的データの分析を組み合わせた研究の必要性が示唆されている（吉原 印刷中）。そこで本報告では、成人期のきょうだい関係がもつアンビバレントな特徴に注目し、全国家族調査 18 質的調査データを用いた分析を行うことを通じて、これまで家族研究において「潜在的」であり目を向けられてこなかった成人期におけるきょうだいとの関係性を捉える新たな手がかりを得ることを目的とする。当日は、より詳細な分析結果を示すとともに、分析によって得られた結果を通じて社会状況、家族関係状況の変化のなかで、これまで以上により多層的、複眼的なきょうだい研究が求められていることを示したい。

【文献】

Connidis, I.A., 2005, Sibling ties across time: The middle and later years. In M. Johnson, V.L. Bengtson, P.G. Coleman, & T.B.L. Kirkwood (eds.), *The Cambridge handbook of age and ageing*, Cambridge, UK: Cambridge University Press., 429-436.

平山亮・古川雅子 2016 『きょうだいリスク 無職の弟、非婚の姉の将来は誰がみる？』朝日新聞出版。

田渕二郎 2012 「世代間アンビバレンスからみた世代間居住関係」『上智大学社会学論集』36, 1-17.

Walker, A.J., Allen, K.R., Connidis, I.A., 2005, Theorizing and Studying Sibling ties in Adulthood. In Vem L. Bengtson, Alan C. Acock, Katherine R. Allen, Peggye Dilworth Anderson, David M. Klein (eds.), *Sourcebook of Family Theory & Research*. Sage Publications., 167-190.

吉原千賀 2009 「老親と世代間関係」野々山久也編『論点ハンドブック家族社会学』世界思想社, 287-290.

——— 印刷中「成人期のきょうだい関係と家族——NFRJ18 きょうだいダイアドデータによるマルチレベル分析——」『高千穂論叢』第 56 巻第 1 号。

（キーワード：成人期きょうだい関係、アンビバレンス、ライフコース）